

第16回 全国宅老所・グループホーム研究交流フォーラム IN 京都

2014年 3月1日(土) 13:00～18:00 ～ 3月2日(日) 09:00～13:00

※交流会は1日目終了後19:00～21:00に実施します。(希望者のみ)

立命館大学・衣笠キャンパス 以学館2号ホール
〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町56-1

500名 ※要申込み、先着順

参加費 1人 5,000円 交流会(希望者のみ) 1人 4,000円

申込み締切 2014年 2月21日(金)

申込み・問合せ ①別紙の参加申込書に必要事項を記入の上、FAXにて事務局にお送り下さい。
※参加費は、下記の郵便振替口座にお振り込み下さい。振込手数料はご負担いただきますようお願いいたします。

郵便振替口座	記号番号 02200-3-45413 加入者名 宅老所・グループホーム全国ネットワーク
--------	--

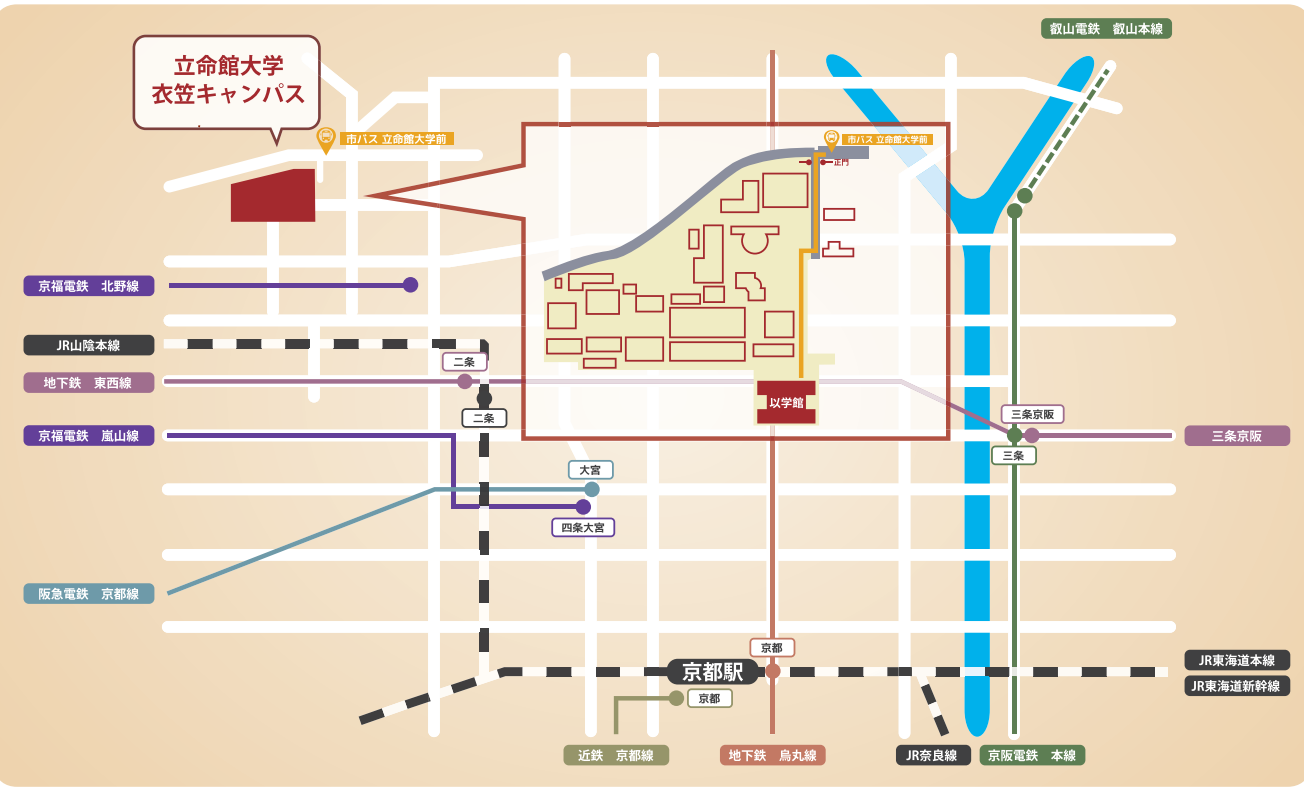
※備考欄に「宅老フォーラム参加費」とご記入ください。

- ② 詳しくは、別紙の「参加・交流会の申し込みのご案内」を参照ください。
- ③ 宿泊先・交通手段等につきましては、参加者の皆様でご手配ください。

宅老所・グループホーム全国ネットワーク事務局 (担当:小野寺麻衣・高木)
〒981-0932 仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1F

FAX 022-727-8737 電話 022-727-8731

アクセスマップ



2014
京都

今、通所介護の

あり方が

問われている

制度がどうであれ、現場・地域で必要な「介護」の本質は変わらない

2014年3月1日(土)～2日(日)
立命館大学 衣笠キャンパス以学館2号ホール

主催 宅老所・グループホーム全国ネットワーク
協力 富山ケアネットワーク/街かどケア滋賀ネット/大阪宅老所・グループハウス連絡会/兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会/西播磨地域での支援や介護を考える会/ぼちぼちこうねっ/伊予つむぐの会/大分県小規模介護ネットワーク

今、通所介護のあり方が問われている

-制度がどうであれ、現場・地域で必要な「介護の本質」は変わらない-

趣旨

▶「在宅○、施設×」安易な思考から脱却して、本人支援の観点から地域で生活を支えることを実現するために必要となる実践を共有することを目指す。

▶小規模ケアに取り組む実践者が一堂に会し、情報交換や交流を行う。

▶介護保険制度の改定や介護保険報酬の見直しに向け、意見表明を行う。

▶制度の如何を問わず、小規模ケアの抱える課題について議論する。

3月1日（土曜日）1日目

—12時— 受付開始 —

13:00 開会・挨拶 惣 万 佳 代 子 （宅老所・グループホーム全国ネットワーク代表世話人）

13:10 基調講演 誰のための、なんのための介護か

登壇者 河 原 正 明 さ ん （播磨地域福祉サービス第三者評価機構・兵庫県姫路市）

障がい当事者としての視点から社会福祉基礎構造改革において示された「個人が住み慣れた地域において、人としての尊厳をもって、その人らしい自立した生活ができるように支えること」の具現化について考えます。

14:20 実践報告 通所介護で暮らし・生活を支える取り組み
～特別なことはしないが「ただ預かっている」だけではありません～

登壇者 平ヶ倉文雄さん（かざぐるま・大分市）
西村さとみさん（宅老所ふるさと・三重県桑名市）
松原和代さん（合同会社 遊歩道・山口県下関市）
弥重卓志さん（東中浜デイサービスセンターゆう・大阪市城東区）
永田かおりさん（NPO法人ひだまり・滋賀県米原市）

コメンテーター 瀬 川 雅 和 さ ん （蒲生の家・今福本店・大阪市城東区）

宅老所の実践は、通う・泊まる・家にも来てくれるという単なる手法論ではありませんでした。認知症になっても障がいがあっても地域でその人らしく暮らせるために、今までの関係性を断ち切ることなく、自己決定を支援したり、役割を築くための支援を行ってきました。プログラム化された機能訓練や系統だった認知症リハビリなど、特別なことを行っているわけではありませんが、ただ単に預かっているだけではありません。暮らしや生活のなかで本人支援・家族支援・両者の関係支援の実践を報告してもらいながら、支えることの大切さを再確認します。

— 小休止 —

16:10 ディスカッション 1 通所介護徹底討論！ ～制度改定の行方を探る～

登壇者 惣万佳代子さん（宅老所・グループホーム全国ネットワーク代表世話人）
稲葉好晴さん（厚生労働省老健局振興課 課長補佐）

コーディネーター 河 原 正 明 さ ん （播磨地域福祉サービス第三者評価機構・兵庫県姫路市）

2015年の介護保険制度改定に向け、今、デイサービスのあり方が議論されています。そのなかで、デイサービスは4つに類型化され、機能訓練やアクティビティなどの付加的機能を高く評価する一方で、そのようなサービスを提供しないものを「預かり（レスパイト）」に特化したサービス」として一段低く位置づけようとしています。このセッションでは、一人ひとりの暮らしを総合的に支援する宅老所の実践をもとに、「お泊まりデイ」の課題にも触れながら、在宅支援における通所介護の役割を改めて議論・発信します。

— 小休止 —

17:40 本日のまとめ 登壇者 惣万佳代子さん（宅老所・グループホーム全国ネットワーク代表世話人）
瀬 川 雅 和 さ ん （蒲生の家・今福本店・大阪市城東区）

—18時— 1日目終了 —

3月2日（日曜日）2日目

—8時30分— 受付開始 —

9:00 ディスカッション 2 居住系施設での「在宅支援」の可能性を考える
～生活を取り戻す、まちに出てくらす、家にもかえる～

登壇者 松尾智志さん（特別養護老人ホーム西ノ京苑・奈良市）
白石雅和さん（グループホームにしむら・兵庫県加古川市）
内海正子さん（NPO法人はなのいえ・兵庫県姫路市）

コーディネーター 三 浦 研 さ ん （大阪市立大学大学院生活科学研究科・教授）

特養やグループホームに入ると「二度と出てこれないから終わりだ」と信じられています。だから、「自宅にいたければ施設にやらないこと」となります。でも、本当に大切なのは「おとしより本人の（地域）生活が継続すること」であり、それをどう支えるかです。入居してきたおとしよりの生活を立て直し、新たな生活環境をつくりあげ、社会関係の継続を保障し、自宅にも元いた地域にも行けるのであれば、「施設か在宅か」ではなく、本人支援の一点で共通の議論をすることができるはずです。そんなことを考えていきます。

— 小休止 —

10:30 ディスカッション 3 本人の集いたくなる「地域の居場所」を考える
～「される」だけではない。自分で「する」ことがある場所～

登壇者 飯島恵子さん（NPO法人ゆいの里・栃木県那須塩原市）
長福洋子さん（NPO法人エフ・イー・大阪市阿倍野区）
佐藤寿一さん（宝塚市社会福祉協議会・兵庫県宝塚市）

支援が必要な人の地域の居場所は、何もデイサービスだけではなくありません。本当は多様な居場所があるはずです。デイサービスからしか発想できないのは、実践者の勝手な思い込みのような気がします。財政的な問題で軽度者が地域支援事業に移行させられるのは腹立たしいことですが、その反面、サロンやカフェなどの実践と一緒に「当事者のための居場所」のことを考えはじめるいい機会にすることができます。その過程で、デイサービスの果たす役割の再検討できればと考えています。

— 小休止 —

12:00 全体のまとめ 登壇者 中村大蔵さん（特別養護老人ホーム園田苑 前施設長・兵庫県尼崎市）
飯島恵子さん（NPO法人ゆいの里・栃木県那須塩原市）

—13時— 閉会 —

交流会



3月1日（1日目）19:00～21:00

今回も参加者の皆さまが集い、わきあいあいと語り合う機会として、交流会を実施します。日頃の出来事からこれからの展望まで、たのしく語り合いましょ。ぜひ、ご参加ください。

参加申込書にてお申込みいただき、フォーラム参加費と一緒にお振込みください。
定員50人（先着順）

※交流会に参加予定の皆さま
・1日目の受付時に交流会の会場など、詳細をお知らせいたします。

お一人
4,000円